

# 郷小だより

4月号

2021. 4. 6

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

## 『育ちゆく一人一人の「安心基地」であること』

校長 高橋 励

この4月1日より、浜之郷小学校の校長となりました高橋励(たかはし すずむ)と申します。前任の青柳前校長の願いを引継ぎ、この学び舎に通う子ども一人一人が、「安全」に「安心」して生活しながら、これからの自分の未来に向かう航路を切り拓いていくための技と知恵、たくましさとしなやかさ、そして、やさしさを身に付けていくための「学びの場」づくりに励んでいきたいと思っています。

私は、この年度末までの3年間、茅ヶ崎市教育センターで勤務していました。その間、さまざまな講座の運営を行なう中で、乳幼児期から思春期にかけての子どもの成長発達についてのお話を聞く機会に多く恵まれました。また、ご参加いただいたお子様のいるご家庭の保護者の皆さまの一人一人が、我が子のすこやかな成長を願っていらっしゃることに改めて気付かされました。そして、地域で子どもを見守る方々の想いにも触れることができました。

学校で学べることは、計算のしかたや漢字の書き方、科学の知識などだけではありません。むしろ、正解が一つとは限らない他者とのかかわり方や物事のとらえ方、自分が面白さを感じたことに継続して取り組んでいくための興味・関心や、自分の望むようにならないときにそれを越えていくためのねばり強さを学ぶ場所であると考えています。

日々新しい出来事に出会い、新しい発見をしていく子どもの成長発達には、探検のためのエネルギーを安心して補給できる「基地」と危険を感じた時に身を寄せられる安全な「避難所」となる「安心基地」の存在が大切になるといわれています。それは、保護者や養育者であったり、保育者であったり、友だちや、地域で共に暮らす方々であったりと、子どもの成長の過程で変わっていきますが、私たち学校教職員もその役割を担うものであるといわれています。

成長の過程で多くのことを学んでいく学校での主役は子ども一人一人。ご家庭や地域の方々を含めた私たちおとなは、いわば、その舞台を一緒に創り上げていくサポーターチームです。学校が、お子様一人一人にとって魅力的な冒険の場になるよう、教職員一同力を尽くしてまいります。各ご家庭の皆さま、近隣の地域の皆さまにも、これまで同様、浜之郷小学校に集う子どもたちが未来に向かって挑戦していくための「安心基地」としてお力添えをいただけますよう、お願いいたします。